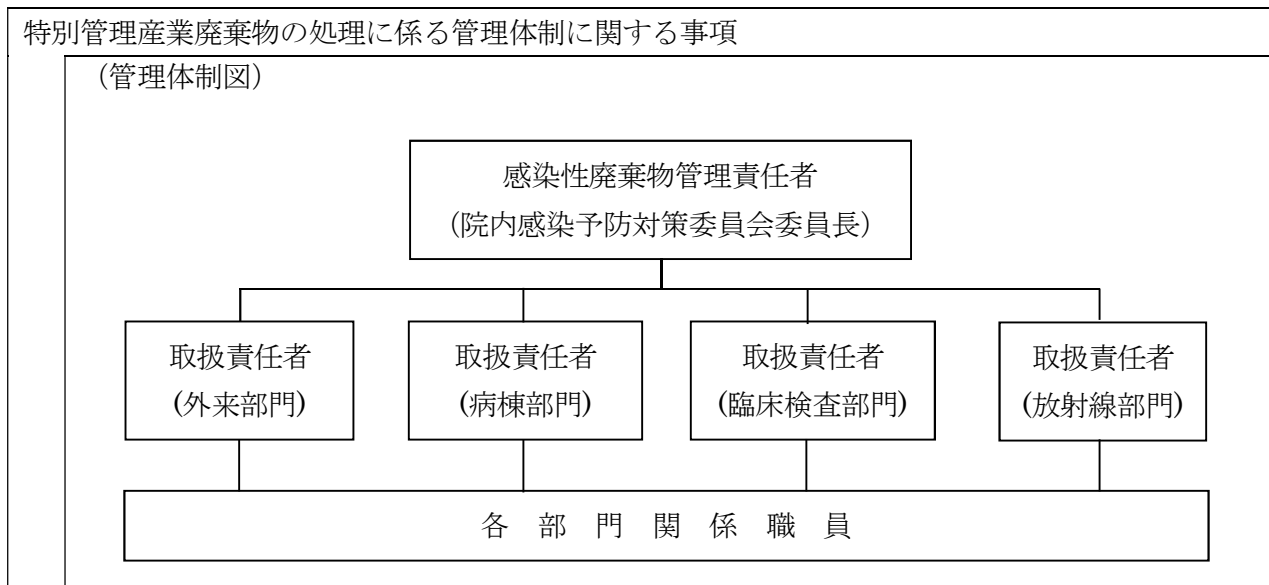


(第2面)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	排出量	162.958 t	0.828 t
	（これまでに実施した取組） 平成28年度以降、心臓カテーテル手術の拡充等により結果として感染性廃棄物の量が増加しているが、管理責任者の元で部門ごとに必要以上の廃棄物を排出しないよう、周知を行っている。 しかし、令和2年度以降は新型コロナウイルス対応による消費量増に苦慮している。		
②計画	【目標】（今年度末の目標値）		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	排出量	140 t	0.6 t
	（今後実施する予定の取組） 新型コロナウイルスの動向に左右される面は否めないが、部門ごとの廃棄物の量や内容を一層精査し、不要な廃棄物が排出されないよう徹底してゆく。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 発生した感染性廃棄物を「鋭利なもの」「固形状のもの」「液体又は泥状のもの」に分別し、それぞれに適した方法で収集・運搬が出来るようにしている。
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記取り組みを引き続き継続する。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】（今年度末の目標値）		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】（今年度末の目標値）		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】（今年度末の目標値）		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	全処理委託量	162.958 t	0.828 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.001 t	0.828 t
	再生利用業者への処理委託量	0.001 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の処理業務に関しては、収集運搬業者と処分業者が異なる場合、相互に業務連携がなされていることが必要であるため、業務の委託にあたっては、収集運搬業者に自ら取引関係があり、最も有利な条件で業務を行うことができる処分業者を選定させ、収集運搬費用及び処分費用の総額で見積もり合わせを実施し、業者と契約を行っている。			

(第5面)

②計画	【目標】（今年度末の目標値）		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	特管廃油
	全処理委託量	140 t	0.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	140 t	0.5 t
	再生利用業者への 処理委託量	0.001 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	<p>（今後実施する予定の取組） 引き続き、優良認定処理事業者への委託も視野に入れて、契約業務を行っていく。</p>		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 （ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）	163.786 t	
	<p>（今後実施する予定の取組等） 令和2年4月1日より、全ての特別管理産業廃棄物について電子マニフェストを使用している。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。